

2021 年度(令和3年度)学校評価自己評価表

一ツ橋中学校区	校番 25	福山市立一ツ橋中学校
最終更新日	2022年(令和4年)2月10日	

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	「学びに向かう力」「課題発見・解決力」「対話する力」「自己・他者理解力」「自己効力感」
めざす子ども像の実現に向け、授業改善が進んでいる。コロナ禍で活動の制限はあるが、子どもたちが生き生きと学ぶ姿が見られ、今後、更に活動を工夫して地域とのつながりを継続してする取組を期待する。	授業改善により、児童生徒が自ら学ぼうとする意欲の向上が見られ、授業満足度は向上傾向にある。中1ギャップは解消に向けて、乗り入れ授業等取り組んでいる。しかし小学校で不登校傾向の児童が中学校で不登校状態にあり、指導に苦慮している。	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる力を身に付けている。
		中学校区として統一した取組等	小中合同の「自ら考え学ぶ授業」を実践するための研究授業を通して、全ての児童生徒が主体的に学ぶことができる学校をめざす。 探究的な学習の充実に向け、小中で連携して、PBL(プロジェクト型学習)の考え方を参考に、生活科及び総合的な学習の時間の単元を開発・実践する。

III 自校

ミッション	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	学びに向かう力	課題発見・解決力	対話する力	
燃えたぎる一ツ橋中魂(心に太陽・情熱と躍動)で、大地を踏まえ大空に向かって羽ばたく人間の育成	めざす子ども像	中期	<ul style="list-style-type: none"> 学ぶことに興味や関心を持ち、見通しをもって、粘り強く取り組もうとしている。 自分の学びを振り返り、次の学びや生活に生かそうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自ら問いを見だし、課題の追究、課題の解決をよりよい方法を選択し取り組んでいる。 未知の状況にも対応できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 個人で考えたことを、意見交換したり、議論したりすることで新たな考え方に気が付いたり、自分の考えをより妥当なものとしたりすることができる。
学校教育目標				後期	<ul style="list-style-type: none"> 事象の中から自ら問いを見だし、課題の追究、課題の解決を行う探究の過程に取り組んでいる 未知の状況にも対応できる
現状	研究	テーマ	自己探究		
<p><生徒></p> <p>「努力すれば自分もたいいのことはできると思う」と考える生徒が89%であり、自己肯定感が高い。また、「学校でみんなと一緒に活動することは楽しい」と感じる生徒は94%であり、学校満足度は向上している。ただし、自分たちで問いを見だし問題解決する力はない。そのために探究学習に取り組む必要がある。</p> <p><授業></p> <p>それぞれの教員が、「生徒が主役になる授業」の具体を明確にし、めざす授業を研修の場で共有した結果「授業で考えることが面白い」と感じる生徒が約80%であり、授業が活性化している。生徒が思考を広げる授業を目指しているが、教員自身が生徒の意見を引き出し切れていないと感じていることが課題である。</p>	内容等	自ら考え学ぶ授業 ～総合的な学習の時間における探究学習による単元開発の実践を通して～			
	めざす授業の姿		<ul style="list-style-type: none"> 自ら問いを見出す場、考える場、深め合う場のある授業 教師がファシリテーターとして機能している授業 テキスト(教材)、仲間、自分との対話のある授業 		

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立一ツ橋中学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
							□指標に係る 取組状況	力也 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	力也 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
4	自ら考え学ぶ 授業の推進	★	継 続	めざす授業の 姿の視点で ・自ら問いを 見いだす場、 考える場、深 め合う場のある授業 ・教師がファ シリテーター として機能し ている授業 ・テキスト (教材)、仲 間、自分との 対話のある授 業	・教員一人一人が自 ら考え学ぶ授業の具 体的なイメージを明 確にし、実現する ・1人1台端末を主 体的な学びのために 有効活用する	・生徒満足度アン ケート 80% ・教職員達成度ア ンケート 80% ・思考力、判断 力、表現力(選抜 Ⅱ参考)問題を工 夫した定期テスト で平均点 65 点以 上	□「学校の学習は 面白い」と感じる 生徒アンケート 80.5% □教職員における 自ら考え学ぶ授業 の実現達成度 88.9% □定期テストにお ける思考力、判断 力、表現力におけ る達成度 65 点以 上 17.6%	3	3	・授業を通して 個の対応を細か く行い、個別最 適化をめざす。 ・授業交流など を通してお互い の研鑽に励む ・授業で、生徒が 問いを見いだ し、思考を深め る場や共有する 場の設定を行 う。	□「学校の学習 は面白い」と感 じる生徒アンケ ート 87.6% □教職員におけ る自ら考え学ぶ 授業の実現達成 度 87.5% □定期テストに おける思考力、 判断力、表現力 における達成度 65 点以上 26.7% ◎授業では思 考・対話する場 面の設定ができた が、「自分ごと」 になっていない ため、定期テ ストで表現す ることができな かった。	3	3	3	・授業を通し て「探究」を生 徒に浸透させ、 学習意欲の向 上を促す。 ・生徒が課題 を「自分ごと」 にできる授業 の工夫を行う。 ・自分の課題 を設定する場 を設けること で自主的に学 びに向かう力 を向上させる。
4	自己指導能力 を育む教育活 動の推進		継 続	めざす子供像 の視点で、 「総合的な学 習の時間、学 校行事、生徒 会活動 を企画・実 施・評価	・探究的な学習の理 論研修及び単元計画 作成 ・総合ポイント制 度、グッドナイスカ ード表彰活動を実施 ・通級指導教室、ひ まわり、を活用した 居場所づくり	・年間4回研修実 施、1単元作成 ・みんなと一緒に 活動するのは楽し いとを感じる生徒 90%以上 ・不登校生徒全校 生徒の 8.5%未満	□探究的な学習に 関する研修 3 回実 施した。各学年1単 元計画を作成して いる。 □学校が楽しいと 感じている生徒 86% □不登校生徒は全 校の 2.8%である。 通級指導教室やひ まわりを活用し、さ らには meet で授	4	3	・探究的な学習 の単元計画の作 成および改善を 進めていく。 ・生徒主体の活 動を増やしてい く。 ・保護者や関係 機関との連携を 推進する。	□探究的な学習 に関する研修 5 回実施した。小 学校に出向き、 小中交流をする ことができた。 □学校が楽しい と感じている生 徒 91.6% □不登校生徒は 全校の 4.6%で ある。別室やオ ンラインなど生	4	3	4	・単元計画の作 成および各学年 間の交流を図 り、次年度に繋 げる。 ・生徒主体の場 の設定を探究的 な学習を通して 設定できる生徒 の育成を継続す る。

						業を受けている生徒もいる。				徒に合わせた支援方法をとっている。 ◎体育大会を生徒会主体で企画し、実施することができた。				・生徒に合った対応方法を関係機関や保護者と連携をしながら取り組む。
8	子ども主体の健康・体力づくりの推進	継続	<ul style="list-style-type: none"> ・新体カテストの個人内評価向上 ・給食残食率の低下 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育の種目と関連と項目の重点化 ・ロスノン運動の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・新体カテスト全種目の記録増加率を1年間で80%以上 ・給食の残食率7%以下 	<ul style="list-style-type: none"> □体力向上のために長期休業中にトレーニングプログラムを実施。 □4～7月の残食平均は4.0%。市の平均残食率と比べると、どの月も平均を下回っている。 ・栄養士と連携し月1回給食指導を実施した。 	3	4	<ul style="list-style-type: none"> ・体育の種目と関連させ、体の動かし方を学べるトレーニングを行う。 ・委員会活動を通して、生徒が自ら考え、工夫した取り組みを行い、学級や委員会で達成感を共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> □長期休業中のトレーニングプログラムと毎時間授業時に補強運動の実施。 □生徒保健委員会で残食調べの結果をまとめクロムブックで発表し生徒に啓発する。 ◎保健委員会の啓発活動と栄養教諭の給食指導の成果で本年度の残食量は市2.6%より少なく1.1%だった。 	3	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ・自分から課題意識を持ち、必要なトレーニングを授業等に実施できるように仕組む。 ・引き続き栄養教諭と連携し、残食率低下に取り組む。
2	能動的・革新的な教育の質の向上	継続	<ul style="list-style-type: none"> ・業務改善と焦点化した教育活動の質的向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革での1人1台の有効活用 ・定時退校日の確実な実施 ・学校施設時間18:30の実現 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員アンケート「仕事に充実感を感じる」90%以上 ・定時退校日実施の確認 ・時間外勤務平均45時間以内 	<ul style="list-style-type: none"> □「仕事に充実感を感じる」85.7% ・1人1台端末を活用し、ペーパーレスを行い、時間短縮や用紙代節約を図った。 □定時退校日を計画的に設定した。 □時間外勤務平均45時間以内 78.5%（4月～9月） 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・主任・主事を中心に校務分掌の分担と仕事内容の明確化を図る。 ・定時退校を当日行えなかった場合は同じ週で実施する。 ・校務の分担を計画的に配分する。 	<ul style="list-style-type: none"> □「仕事に充実感を感じる」77.0% ◎別日と呼びかけることで、教職員の意識が高まった。 ◎年度初めに向け校務分担再確認を進めている。 □時間外勤務平均45時間以内 72.8% 	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年など小グループで、お互いの考えや思いを聴きあえる場を増やし、取組を認め合い改善を進める。 ・ICT(ソフトウェア等を含む)の活用を更に進める。

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。